

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

002	相模原線京王多摩センター・橋本間建設事業	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
騒音	<p>評価目標が明確でないので、「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」等を勘案し目標を設定すること。</p> <p>構造などを考慮した防音壁の設置、ロングレールの採用、レールの重量化、効果的なバラストマットの設置、緩衝地帯の確保、防音を考慮した車両構造の採用、車輪の扁平磨耗の防止のための保守管理方法の確立及びこれらの対策を踏まえた供用後の車両の運行速度を含めた運行方法の検討など、最も効果的な騒音レベルの低減方を総合的に検討し、評価を行うこと。</p>	<p>「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」等を考慮し、沿線住民の居住環境に著しい影響を及ぼさないようにすることで評価目標を設定する。</p> <p>次の対策を実施することにより沿線住民の居住環境に著しい影響を及ぼさないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高さ1.3mの防音壁（一部吸音材装置）を設置する。 ・ ロングレールを採用する。 ・ 50kgレールを60kgレールにする。 ・ 新型バラストマット（二層マット）を敷設する。 ・ 車輪の扁平磨耗防止のための保守管理体制を推進する。 ・ 新型防音装置（干渉型防音装置等）の設置の検討推進をする。 ・ 低騒音車両の開発採用を進める。 ・ 緩衝帯として鉄道沿に道路を確保する計画を関係機関と調整推進する。
振動	<p>振動を防止するためのレールの重量化、ロングレールの採用、効果的なバラストマットの設置、車輪の扁平磨耗防止のための保守管理方法の確立など最も効果的な振動レベルの低減方を総合的に検討し、評価を行うこと。</p>	<p>次の対策を実施することにより沿線住民の居住環境に著しい影響を及ぼさないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロングレールを採用する。 ・ 50kgレールを60kgレールにする。 ・ 新型バラストマット（二層マット）を敷設する。 ・ 車輪の扁平磨耗防止のための保守管理体制を推進する。
電波障害	<p>現況のテレビジョン受信状況を的確に把握し、事業実施に伴い生ずると予測される各種電波障害を考慮したうえで予測評価を行い、共同受信施設の設置等も考慮に入れた総合的な対応策を検討すること。</p> <p>また、評価目標の設定は地域住民のテレビジョンの受信状況を著しく悪化させないこととして設定すること。</p>	<p>現況の受信状況を著しく悪化させないようにすることで評価目標を設定する。現況の受信状況は受信品位おおむね“3”となっている。遮へい障害発生の可能性のある範囲は、最大でおおよそ120mである。これらの対策として事業実施時に詳細調査を行い、その結果によりアンテナの調整、共同受信システム施設の設置等を実施する。</p>
日照障害	<p>評価目標は建築基準法56条の2の規定を参考にして設定するとともに高架構造物の検討などの日照障害対策をたて評価すること。</p>	<p>建築基準法第56条の2の規定を考慮して沿線住民の居住環境に著しく影響を及ぼさないようにすることで評価目標を設置する。高架構造物は極力低くするよう配慮しているが、さらに詳細な検討を行い、できるかぎり高さを下げる。</p> <p>日陰を生ずる側に緩衝地帯としての道路の設置を関係機関と調整推進する。</p>